

2022年度 群馬パース大学 FD 活動報告書

本学は3学部7学科で構成され、看護師・保健師・助産師・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士の各国家資格を有する必要な知識と高い技術を学修する保健医療専門職を育成している。

2022年度もパンデミック対応が継続され、病気の脅威を的確に捉え、臨機応変な対処を心がけてきた。

以下のようなFD活動を推進したので、報告する。

I. 学生による授業アンケート

全学科全履修者を対象に、「授業項目（授業中身の対する評価）」「担当教員（教員への評価）」「自分自身（学生自身に対する評価）」に分類された質問項目について、学生が自由に期間内に入力できるよう設定した。

集計結果は、外部委託業者に集計を依頼したことにより、今年度は新たに集計データのレイアウトや集計項目を改善し、教員が内省して授業の改善方法を見出しやすいように検討を進めてきた。

しかしながら、前期授業アンケートの回答率は、講義を中心とした授業（主に1年生）では約45.0%となるが、全体回答率（1~4年生）は、前年度21.6%から高くなってはいるものの28.2%と低い状態であり、学科によってもバラつきがみられた。授業改善につなげるためにも回答率を高める方法をさらに検討する必要性が確認された。

II. 学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは、学科単位で実施された。

コロナ禍での実習であり、病院でのクラスターの発生、学生自身の感染や濃厚接触者となった場合、実習が予定せず中止となることも決して少なくなかった。

しかしながら、学科によっては、病院等での実習ができた場合と、実習ができなかった場合（学内実習）、両者の場合の評価アンケートを作成し実施することができた。

III. ピアレビュー

学生の能動的な学修への参加や思考を深める有効なアクティブ・ラーニングの方法が求められている。他教員の講義や演習から直接的に学ぶピアレビューについて、今年度は、重点を置いて、毎月のFD委員会の中で実施率を確認し、FD委員が率先してピアレビューを実施するとともに、他教員へも実施を呼びかけてきた。

その結果、今年度ピアレビューの実施率は43.9%と昨年度より10%程度上昇したことが確認された。来年度もピアレビューについて前期中の早期段階から意義を発信し、ピアレビューの実施とその前後を含め、高め合える教員相互の関係性を構築していきたい。

IV. 学生FD推進

山形大学の学生によるFD会議がZoomによって開催された。しかし、本学は実習等の期間に入っており、本学の学生は参加することができなかった。現状、本学内において学生のFD活動は新型コロナウイルスの影響等により、活動休止状態となっている。

V. FD研修会

大学全教員を対象として群馬県教育委員会 デジタル教育室長の清水 義博 氏よりご講演をいただいた。「一人一台端末を活用した教育活動の現状～教育イノベーションの趣旨を踏まえて～」のテーマのもと、一貫性のある系統的なデジタル教育を目指す小中高等学校教育の取組などを学ぶことで、大学教育におけるデジタル教育の在り方を再認識することができ、受講者からも良好な評価が得られた。

<FD 研修会の様子>



VI. 教育研修体系による研修

大学教員経験 5 年目以内の教員を主な対象としてファーストレベル FD 研修会を開催した。埼玉大学 教育学部 准教授 七木田 文彦 氏に『教えること』と『学ぶこと』に必要なことは何か』というテーマのもと、ご講演をいただいた。教員にとって『教えること』、学生にとって『学ぶこと』について新たな視点で具体的に深めることができ、受講者から好評を得ることができた。

また、上記 V, VI の両研修会とも実習指導等で研修参加が不可能な場合には、動画配信により視聴することを可能とした。そのため、対象者全員が受講することができた。

<ファーストレベル研修会の様子>

